

入試の成績と入学後の成績

入学試験の成績と入学後の大学での成績との間の関連性についてかなりの数の大学が調査研究を行っている。

ここではその内容について調査方法、その結果及び今後予定されている調査方法の順に整理して述べることとする。

(1) 調査研究の方法

○共通1次試験と大学成績との関連

共通1次試験における大学側の要望する最低点及びその近辺で入学した者を対象に、入学後の英語と数学について単位の取得状況の調査を行ったもの、共通1次試験受験者の追跡調査を行ったもの、共通1次試験の成績と入学後の基礎科目の成績との相関を調査したもの、共通1次試験における各教科と入学後の学内成績との相関を調査したもの等がある。

○共通1次試験と第2次試験両者と大学成績との関連

調査の種類、調査の量とも非常に多い。主なものには共通1次試験及び第2次試験の成績と大学の教養課程の成績との関連の調査がまずあげられる。これには共通1次試験及び第2次試験の総点と教養課程の単位履修状況や成績の総点との関連をみたもの、共通1次試験及び第2次試験の教科別の成績と教養課程の学科目別の成績の相関をみたもの等がある。また相関分析ではなく、共通1次試験及び第2次試験の教科

別成績に基づいて合格者の層分けを行い、入学後の成績をみるという方法も行われている。

次に共通1次試験及び第2次試験の成績と大学における一般教育科目及び専門科目の成績との相関をみる方法があげられる。また共通1次試験及び第2次試験における特定科目（例えば英語）と一般教育、専門における特定科目の成績の比較等も行われている。

その他、共通1次試験及び第2次試験の成績と専門課程基礎学の成績との相関を求めたもの、教養課程修了学生と留年学生の共通1次試験の成績、高校調査書評定平均値、第2次試験成績の比較をしたもの、共通1次試験及び第2次試験の成績と専門科目のみとの相関を求めたもの、共通1次試験及び第2次試験の上位グループと下位グループについて調査した大学成績（一般教育科目、教科教育学科目、基礎科学科目）との関連をみたもの等がある。

また、より詳しい資料によるものとして、・共通1次試験の総点、高校調査書記載の評定平均値の平均、第2次学力検査の得点、2次募集試験の得点等の入学試験の諸資料と大学入学後の成績評価指数による調査、・大学入学者の学部別の成績最高点、最低点、平均点、標準偏差を求め、共通1次試験、第2次試験、両者の総合、高校成績についても最高点、最低点、平均点、標準偏差を求め、相関をみる調査がなされている。

従来行われなかった新しい方法として、数量

化を行わず、共通1次試験の総合得点と第2次試験（小論文）の成績を指導教官のアンケート調査による演習の成績と比較することによって相関をみるという方法があり、統計的処理の可能な調査結果は期待できないとされてはいるが大変興味深いものである。

○第2次試験と大学成績との関連

小論文のみの入試成績と入学後の成績の相関を調べたもの、第2次学力検査の成績と入学後の成績の相関を調べたもの、第2次（実技）試験と大学内実技成績との相関を調べたもの等がある。

○高校調査書と大学成績との関連

共通1次試験成績及び第2次試験成績と併せて調査されているのが一般的であるが、高校の科目の成績と大学一般教育科目の成績の相関をみたもの、高校における修学状況と大学入学後の履修状況を分析し関連性をみたもの等がある。

○共通1次試験実施前の入試と大学成績との関連

年度順の入試成績と大学における修学成績との相関等を求めたものがある。

○その他

推薦入学に関する調査が多いが、推薦入学と学内成績との関連についての調査、推薦入学群と一般入学群とに分け、入試成績、学内成績の調査を行ったもの、推薦入学者についての追跡調査、2次募集入学者と一般入学者の学内成績の比較調査、学内成績の方に基準を求め入試成績を調査する方法、共通1次試験開始の時点からの入試のデータと大学入学後のデータの分析調査等がある。

(2) 調査の結果

これらの調査結果については、各大学間にはかなりの差異がみられ、それらの差異は各大学の特色によるものや地域的条件によるものと考えられるため、調査結果を直ちに普遍性のあるものと判断するのは危険であるが、ある傾向がうかがえるように思える。

○共通1次試験との関連よりみれば、

共通1次試験の社会と大学成績間にやや相関ありとするもの、共通1次試験の英語の成績と大学の英語の成績に相関ありとするもの（これはかなり多数の大学の調査結果にみられる。）、共通1次試験科目のなかで成績が相対的に悪くて入学した者は入学後単位修得率が落ちると結果するもの、共通1次試験各教科と学内成績との相関は極めて低いとするもの、等がある。

○共通1次試験と第2次試験との関連よりみれば、

両者における英語の成績と大学における英語の成績に相関ありとするもの（多数の大学の調査結果）、共通1次試験及び第2次試験の総合得点と入学後の学内成績との相関は低いとするもの、共通1次試験及び第2次試験の各科目で成績の良いものは単位の修得率が高いとするもの、入試の成績を上位、下位のグループに分け、大学の学内成績との関連をみて、共通1次試験の成績は学内成績と関連せず、第2次試験上位グループが大学において好成績をとるとするもの、共通1次試験及び第2次試験の総合成績と学内の専門の成績との相関は極めて低いとするもの、共通1次試験に好成績をとったものが入学後の学内成績において好成績をとるとは限らないが、

共通1次試験と第2次試験の総合点ではやや学内成績と相関があるとするもの、共通1次試験及び第2次試験の理科成績については学内成績との相関は低いとするもの、等がある。

○2次試験との関連よりみれば、

小論文のみの第2次試験の成績と入学後の学内成績とは相関が低く、学力試験の方に学内成績との相関がうかがわれるとするものがある。

○高校調査書との関連よりみれば、

高校調査書と入学後の成績との相関はかなり高いという調査結果が多く、高校の教科・科目の成績と大学における一般教育科目の成績との間に相関ありとするもの、高校調査書と修学成績との相関が比較的高いとするもの、共通1次試験の総合得点及び入試全体の総点と入学後の学内成績との相関より高校調査書と入学後の学内成績との相関の方がより高いとするもの等がある一方、高校の成績と学内専門の成績間には相関があまりみられないとするもの、高校教科

目・入試科目・大学学科目（数学、物理、化学、生物、英語）の間の相関に有意のものが認められないとするもの、等がある。

○共通1次試験実施前に入試との関連よりみれば、

入試における英語の成績は学内の英語の成績と相関をもつとするものがある。

○その他のものをみれば、

推薦入学と入学後の成績の間に相関がないとするものと、逆に推薦入学者は一般入学者より学内成績が優れているとするものがある。

一般的にいて入試成績と学内成績との相関が低いと調査結果を出したものがかなりの数となり、高校成績（調査書評定）は学内成績とかなりの相関をもつとしたものが多かった。また学科目からいえば英語が共通1次試験、第2次試験、高校調査書、入学後の学内成績間に相関をもつとするものが多かった。